

令和 7 年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	みらいく高松2丁目園
施設所在地	埼玉県狭山市祇園23-25
事業者名	株式会社第一コーポレーション

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然
・水と光
・音
・生き物
・葉っぱ

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
園の強みとしてハイスコープという保育方法を導入しており、子どもたちの主体性を育み、興味関心を持った事柄を繰り返すことで新たな挑戦へと繋げて学びを得られるよう取り組みを考えている。その中で、自然に関する水や生き物など様々なことに興味を抱く発言が増えているためこのテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

【水】 7～8月 ○水の音を聞いてみる：聴診器や紙コップなどを使って水の音を聞く ○水と光の実験：水槽を鏡で囲い、水がどう見えるか実験する。 水に光を当ててどんな風に見えるか実験する。 ○様々な水に触れる（温、冷、氷、片栗粉、寒天） ○水のろ過実験 ○色んな味を楽しもう：だしの味比べをする	【生き物】 9～10月 ○魚解体ショー：お魚かるたで魚への興味関心を深める。 「旬」に魚を買いに行き、買ってきた魚の解体ショーを楽しむ。 魚本来の形や解体した体の中を見て生き物への関心を深める。 ○虫の気持ち：虫眼鏡を使って体制を低くし、園庭や公園の虫を観察する。 ○ネイチャーゲーム：動物に関連したネイチャーゲームを通して生き物の生態に興味関心を持つ。	【葉っぱ】 11～12月 ○マイクロの世界：顕微鏡で土や葉っぱを見てみる。 ○泥団子づくり
---	--	---

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
【水】・絵具・ろ過実験セット・ブルーシート・虫眼鏡・片栗粉・寒天・鏡・水槽
【生き物】・虫眼鏡・顕微鏡・お魚かるた
【自然物】・ザル・顕微鏡・動物カード・光のテーブル
【音】・聴診器

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

水と光の実験：水槽に水を張って懐中電灯で照らす。真水の状態とカラーセロハンを入れた状態での光の違いや販社の変化に気付く。水道から出てくる水がきれいになる過程を調べて再現する。

音：身近な素材によって音の変化はあるのか。生き物や植物など、聞こえる音に違いはあるのか。

生き物：普段食べている食材のうち、魚の体の中はどのような作りなのか調べる。店舗で売られている状態を観察する。

葉っぱ：葉っぱごとに手触りや表面の違いを観察し調べる。虫のや生き物による体の違いを知る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・水の音を聞いてみる→タライに水を張り、聴診器を水の中に入れて音を聞いた。「人がおぼれてるみたいな音がする」「ぼこぼこって音がする」「水の中に入ってるみたい」「聴診器を水の中に入れたときと出す時とで音が違うよ」と話す姿があり、「他の物の音も聞いてみたい」と園庭の木や地面、園舎の壁など様々な場所や物の音を確認する姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・水のろ過実験を行い、興味を持ったことについて過程が目に見えることで知識となり更なる探求心へと繋がった。

・それぞれのテーマに取り組んでいくことで、子どもたち同士で自身の考えについて話し合意を行うようになり、お互いの気付きや考えに耳を傾けるようになった。

・様々な活動を通して、子どもたち自身から保護者に向けて発表がしたいとの意見が挙がり、年度末の行事でSDG'sに絡めて、得た知識を発表した。その際には、それぞれ自信を持って発表する姿が見られた。